

チャレンジ！！オープンガバナンス 2016 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注)	No.	タイトル	自治体名
	29	地域全体で子育てを応援するまちづくり	川崎市宮前区
アイデア名 (公開)	公園を活用したコミュニティづくりとその情報発信と情報共有		

(注) 地域課題タイトルは、COG2016 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

1. 応募者情報

チーム名 (公開)	オープン川崎/Code for Kawasaki		
チーム属性 (公開)	☒ 1. 市民によるチーム		
代表者情報	氏名 (公開)	松浦 慎平	

※ 公開条件について

次ページ以降の「2. アイデアの説明」でご記入いただく内容は、内容を確認した上で、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。

(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)

(注意書き)

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2016_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2016 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_padit_cog2016@pp.u-tokyo.ac.jp

<公開非公開など>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、代表者氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
4. この応募内容のうち、「審査項目自己評価」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。
5. 「アイデアの説明」中に、文章、写真、図画などで応募したチーム以外に知的所有権が属する箇所がある場合には、法令に従った引用や知的所有権者の許諾を得るなどをした旨をそれぞれ注として書いてください。「審査項目自己評価」中も同様をお願いします。

<チームメンバー名簿>

6. チームメンバーは別紙のエクセルファイルに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は COG 事務局からは非公開です。詳細は別紙をご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

データや資料を活用して課題の具体化とその解決につながるアイデア（公共サービス）のストーリーを語ってください。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、だれがする、何をする、どこでする、いつする、どのようにするものなのかを考えて、各要素を入れて内容を描きストーリーを整理していくとよいでしょう。以下の欄内でご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

近年、生活様式の多様化等により、自治会や地域コミュニティが衰退しているといわれています。そこで私達は地域で子育てを応援するまちづくりとして「公園を活用したコミュニティづくりとその情報発信と情報共有」を提案します。住民の近隣にある公園や広場は、子供の遊び場としてだけでなく多様なコミュニティ形成の空間の場とした機能があると考えています。公園をキッカケとしたコミュニティ活性化を図り、日常からのイベント参加や情報共有や口コミを通じて住民同志が顔見知りとなり、信頼関係が生まれてくることで地域の助け合いが生まれ、地域で子育てを応援することを目指します。近隣住民のコミュニティ形成の手段としては、公園に行けば楽しそうなことをしているような状態を目指し、イベント情報や掲示板や回覧板等のアナログ情報をスマホと連携させ、アナログとデジタルの情報発信・共有の融合をさせていきたいと考えてます。

1. スマホアプリとイベント情報、掲示板、回覧板と連携した情報発信・情報共有アプリ
 - イベント情報、掲示板ポスター、回覧板等の紙媒体からデジタル情報への変換
 - 逆に、スマホのデジタル情報から掲示板ポスター、回覧板等の紙媒体への変換・印刷
 - スマホから、イベント情報、開催日時、地図上へのマッピングが閲覧できる
 - スタンプラリー等の位置情報を使ったゲーミフィケーション
 - 回覧板の位置情報がわかる判るようにしてスマホアプリと連携させる
2. 出来るだけ簡単に公園のイベント開催の団体申請や利用申請ができる仕組み
 - イベント開催、団体登録、利用申請がスマホだけで出来るようにする
 - 行政側からは申請を簡潔に承認できるように、デジタルから Web ページ、FAX 送信、申請書印刷を自動で行い、パソコンや紙媒体で承認作業を出来るようにする
3. イベント開催のハードルを出来るだけ下げる
 - 公園利用には様々な制約や条件があるが、公園で簡単にイベントが開催できることを目指し仕組みや IT で開催者や参加者に出来るだけ責任範囲を明時と教育し理解をしてもらう
4. お母さん達の情報源は信頼ある人からの口コミが多い
 - お母さん達の情報源で口コミ情報の見える化をアプリで行う
 - 自分たちの地図を自分で作成出来る仕組みや口コミ掲示板を用意する
5. 公園や児童館等の施設情報の配信
 - 公園や児童館等の施設情報をスマホから閲覧できるようにする
 - 掲示板の位置情報と掲示板に新しい情報があることをスマホに知らせる
 - ビーコンやセンサーを使った自分の近くの公園や掲示板の情報配信と状態発信

(2) アイデアの論拠（公開）

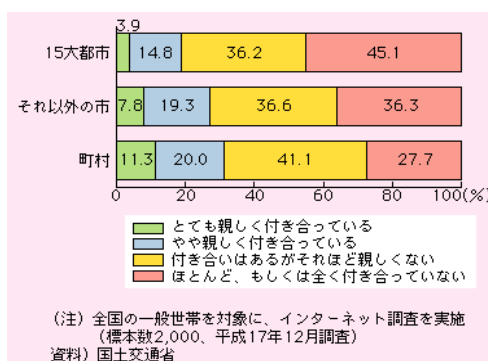
アイデアの論拠（なぜこのアイデアにするのか）を、それをサポートする数値データ（実績、統計やアンケートなど数字であらわされるもの）や証拠（資料や計画、既存の施策など）（以下：総称して「データ類」といいます）などを含めつつご記入ください。数値データや証拠は出所を明らかにしてください。以下の2ページの欄内におさまるようお願いします。

・地域コミュニティの定義と役割

地域コミュニティは家族や個人といった最小の社会構成単位と政府や自治体との中間に位置するものであり、個人や家族で対応できない機能を補い、その機能は防災、防犯、子供の見守り（非行防止や犯罪防止）、地域文化や、街並み、観光資源等の維持など多岐にわたります（山内, 2009）。

地域コミュニティは地域の子育てを核として機能していると経験的に感じており、かつ地域に対する帰属意識の醸成や見守りという地域コミュニティの果たすべき機能から見ても、子供を中心として営まれるべきであると考えます。

・地域コミュニティの衰退と子供を中心としたコミュニティの重要性



近年、都市圏での地域コミュニティの衰退が指摘されていますが、国土交通省が行った調査(国土交通白書)でも川崎市を含む15大都市での地域の人々との付き合いが少なくなっていることが示されています。

同資料の中で、その要因として子供の減少や昼間人口の減少が挙げられています。その他、推測できる要因としては、地域コミュニティ以外のコミュニティを SNS などを利用して維持しやすくなったことも考えられます。あえて地域コミュニティという地理的に限定されたコミュニティに参加せずとも、今までの友人や学校のコミュニティを維持しやすくなっており、子育ての意見交換等もそこで行えます。

一方でそのようなコミュニティは、地域コミュニティの役割である防犯・防災や見守り、文化の継承など半公共的な役割を担うことはできません。

地域コミュニティは今も昔も、子供を中心としてきました。例えば学校や幼稚園の行事もそうであるし、そもそも地域コミュニティにかかわるきっかけとなるのが子育てである場合が多いのではないのでしょうか。

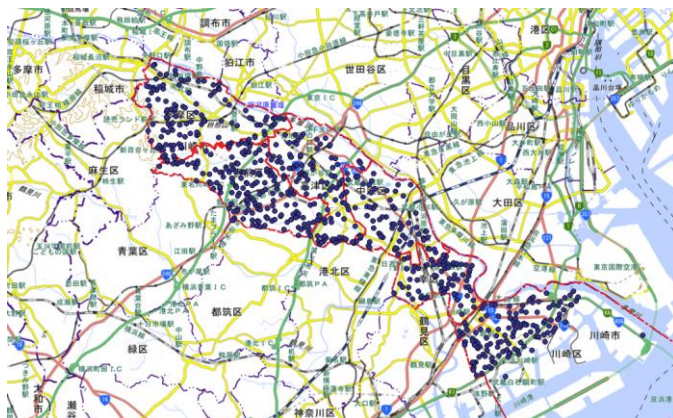
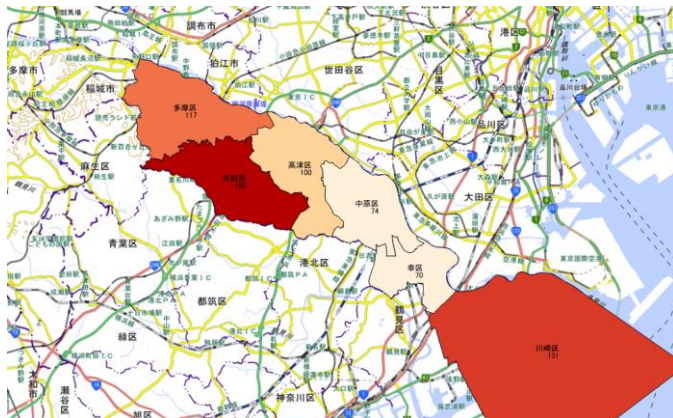
子供が公園や児童館、幼稚園、保育園で友達を作っていく中で、親同士も自然とつながっていくのが健全なコミュニティの醸成過程であると考えます。つまり子育てをする親と子供が公園等に来るような仕掛けを定期的に行うことでコミュニティを底から活性化することが可能です。

・公園を中心とした子育てコミュニティ

子供と親が集う場所としては、幼稚園や保育園が思い浮かびます。しかし、宮前区に居住した体感ではありますが、幼稚園等の通園範囲は区内全域にわたり、幼稚園や保育園で形成されるコミュニティは地理的には地域コミュニティが対象とする範囲より広域です。

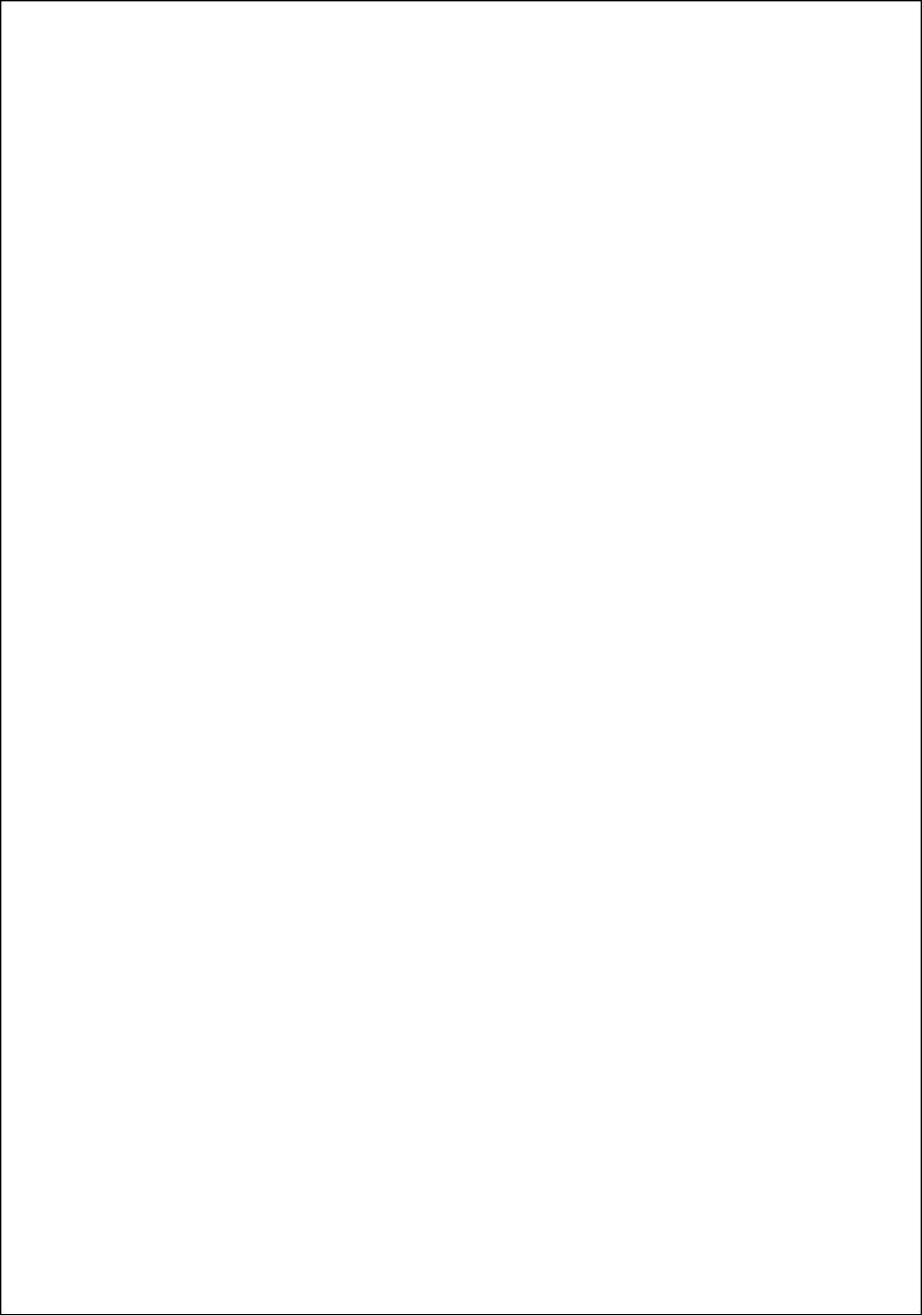
一方、宮前区の公園に目を向けてみると、数は川崎市内では最も多く、その位置は区内にまんべんなく配置されて

おり、これはほかの区に比べても特徴的です（国土数値情報）。つまり公園を中心に人が集まる仕組みを作ること
で、地域に根差した子育てコミュニティを作ることが可能であり、それは地域コミュニティの醸成・強化につながり、子育て
環境および地域環境の充実につながります。



引用文献

1. [山内 一宏 \(2009\), 少子高齢化時代におけるコミュニティの役割 ～地域コミュニティの再生～ 立法と調査 2009.1 No.288](#)
2. 国土交通白書



(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現にいたるプロセスとマイルストーン等、アイデア実現までの大まかな流れについて、以下の欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。（必要に応じて図表を入れても構いません）

- 2017 年 4 月～6 月
 - プレイベント企画
 - ✧ 公園を使った交流イベント
 - ✧ イベント企画者、出展者向けの“イベント開催アプリ”検討
 - プレイベント準備
 - ✧ “イベント開催アプリ”プロトタイプ検討、作成
 - ✧ イベント出展者募集
 - 実際に“イベント開催アプリ”を使って申請する
 - 実際の申請は我々のチームで代行
 - 申請内容から掲示板のポスターを作成
 - 実際のポスター作成は我々のチームで代行
 - プレイベント実施
 - ✧ 公園を借りて実施
 - インタビュー
 - ✧ 出展者へのインタビュー
 - 気軽に出席できたか
 - ✧ 参加者へのインタビュー
 - 課題が解決できたか
 - 仮説検証、ふりかえり
 - 結果を行政へ報告
- 2017 年 7 月～9 月
 - 本イベント企画
 - ✧ 公園を使った交流イベント
 - 本イベント準備
 - ✧ “イベント開催アプリ”ブラッシュアップ
 - ✧ イベント出展者募集
 - 実際に“イベント開催アプリ”を使って申請する
 - 承認部分を実際に行政担当者に協力頂いて実施
 - 申請内容から掲示板のポスターを作成
 - 実際のポスター作成もシステムで行なう
 - 各地域の掲示板協力者募集
 - 本イベント実施
 - ✧ 公園を借りて実施
 - インタビュー
 - ✧ 出展者
 - ✧ 参加者
 - 親等の大人
 - 子供（子ども目線の意見）
 - ✧ 行政担当者
 - ✧ 仮説検証、ふりかえり

- ◇ 結果を行政へ報告
 - 常設可能かの判断
- 2017 年 10 月～12 月
 - 常設イベント企画
 - ◇ 公園を使った交流イベント
 - 常設イベント準備
 - ◇ “イベント開催アプリ”ローンチ
 - ◇ 承認部分を実際に行政担当で実施
 - ◇ 地域協力者でポスターの印刷、貼り付け
 - 常設イベント実施
 - 評価

(4) そのほか（公開）

アイデアのアピールポイントや、アイデア実現に当たっての制約があればそれとその当面の解決方法、さらに将来の発展可能性（例えば「将来的に xx という制約をクリアできれば、追加で○○ということが実現できる」など）について、以下の

欄内におさまるよう、簡潔にご記入ください。

アピールポイント

- コミュニティを形成するために既存の情報発信（紙媒体、口コミ）とITの融合
 - イベント情報、掲示板ポスター、回覧板等の紙媒体からデジタル情報への変換
 - 逆に、スマホのデジタル情報から掲示板ポスター、回覧板等の紙媒体への変換・印刷
 - 既存のアナログの紙媒体（掲示板、回覧板）とスマホでの情報を同期
- スマホアプリから情報を閲覧・共有出来る
 - 街の掲示板、回覧板の内容
 - 公園や児童館等の施設情報
 - 地域に特化した口コミ情報と掲示場
 - 自分達だけの地図を作成出来る
- イベント開催のハードルを出来るだけ下げる
 - 出来るだけ簡単に公園のイベント開催の利用団体や利用申請ができる仕組み
- IoT やセンサーを使った地域の位置情報や状態の発信

制約事項

下記の制約をクリアする必要があります。コスト以外や役割や責任範囲の明確化をすることが必要です。

- 街の掲示板や公園、施設の施設情報と位置情報のオープンデータ化
- 掲示板や回覧板の紙媒体の管理者に情報を登録してもらう仕組みの確率
 - 掲示板や回覧板等の既存の紙媒体のオープンデータ化
- 公園でのイベント開催の利用団体登録や利用申請の自治体との連携
- 自治体側での承認プロセスの簡素化や代理承認プロセスのルール化
- 紙媒体への印刷や FAX 送信の運用コスト
- サーバ運用コスト
- サービスとソフトウェアの開発コスト